



都曲

上

特別
~5
6051
1



滑^カ秋^キ音^コ滑^カ秋^キ者^シ季^キ鍛^カ自^ヨ練^ル雲^ニ
 游^ユ于^ニ四^シ方^ニ吐^ト出^ス於^ニ新^ニ風^ヲ才^ニ
 翔^カ之^カ翔^ニ口^ニ江^ニ帥^カ之^カ領^ニ作^カ壓^ニ
 衆^ノ人^ノ之^ノ舌^ニ頭^ニ踞^ニ於^ニ言^ニ句^ニ
 三^ニ昧^ニ也^ニ少^ク多^ク大^ク小^ク中^ニの^ニを
 予^ニも^もわ^もと^とし^しる^る 渚^ニ下^ニ池^ニあり

沚スウ激バツ流シウ子請ニ君試ニおニ

節春澄

書



元旦

年ニや日ニ較スく日ニのハ行ク

駒角

橋ハや島ノのハ表ヲかき流シ了シ全

仙ヤ人のハ尸ヲき菊ハ中ニ一ニれ全

煙ハ火ハれ灰ニ物ヲくハ録シ全

面白や楊柳多しとくはる多 京 和祈

村ぬと橋も糸込橋舟はれ全

夜はくして秋は寒き時 齡の那全

牛の毛は折れぬ曲らぬ時ぬが全

晴ゆくや四季はあそびる山橋 京 仙養

文級小石をりくまきこ田植ふ全

かみりく草歯^{カム}し相撲えれ全

寒く菊や花一とせは素納め全

苗代やとゆりて醒し信の碎 一翠

系

初鳥とハ護朽 ギホウニエ 冷の涼 サメ 全

鴨北喜小途く生一白髪 日 松隠

鴨 子 孫も喜や提一 鳥 狐 一翠

目 ヒキ の蝕や物 ヒキ 河と海と ヒキ 蟾 ヒキ 此類 可心

若河建氏

競る人 ヒキ 人 ヒキ や河原此方念 全

夜相摸 ヒキ のう ヒキ られ出 ヒキ たり山法所 全

お火焼や ヒキ 桑 ヒキ 形 ヒキ 多 ヒキ 孫 ヒキ ぬ ヒキ 鴉 全

若別津面

精こころを我摘とつふふるる菜なかれ 去こ笛

燎カサヒの燎ほままややららをを摘とれれ全

初はつ汐しほふふももめめのの瘦しほぬぬ海うみ月つき即すなはち全

火か燒やくく未いま系けいとと葉はぬぬ勢せいれれ全

系 如琴

ままぶぶゆゆんん滝たき壺う白しろふふ山やま揚たか全

入い相あ小こ氣きをを系けいれれぬぬ揚たか舟ふねれれ全

星ほしををいいせせりりくく力ちからのの床とこ熟じやくふふかか全

こころろのの吹ふききりりんん 流なが星ほし 全

川楮北勢ハ弱ク柳ノ乳東鳥玉

氷室ノ守者ニテ萬古全

頭人小引ヨリ一沖解車全

大音ノミヨリ休ビテ湖水乳全

伏見江也澤ハナ沼ハナハ足踏ハナハナ東千春

山池ノ入樋ニメク民女子苗乳全

長ノ書ヤ花雪ハナハナハナハナハナ全

色ハナハナハナハナハナハナハナ全

被るも又あまびりこころ

系

助雙

棹はるまゝ舟はり杖はる

氣遠の程は揚る麻糸の

あまびりこころ毛は白く朝島

物よりも二味は茶より梅は

系林氏

原元

杖若くして使はるるなり

和や腕の茶はうさ枝は履る鳥

その様より見入るる人の顔は

京之上

院の梅衣はけり行 譽の部 都寄

晴回と紫うふゆがる 雲れ 全

扨侍や卒教波安の中此 一網 全

夜とくくい半は地と 何思の 全

を國やふるは桂乃 落るもも 京 良詮

我属の琴もいりぬ 回舟が 全

人魂もさうさう 一は妹背れ 全

推りてまも妻あは 水の歌 部 全

玉落は柳の牛の眼孔

京

松隱

廿

夏瘦や清と門は控るがし

日池西氏

如友

月をく床は建ちり新田北橋

松隱

いねりし苗は女めあけ所

西六条

宗清

入相し白鳥は名を裸しりわ

京

若水

涼しやむを泣くも舟

日

沖音の目送ぬんも床敷の心

日

蝶拂ハ漱小女さうりきり

日

三

嵐小も草木とてさぬ柳の枝京 葎木

碑と調して苔ふきり此涼の伏見相川 氷

ゆく牛ふ口の竜くじり花ゆふる但列出石 可也

態瘦多牛一の糸あひ深き川 白

清廟野ハ花えぬと此会仏れ京橋東 和海

市原子空霞さめりり競る川 全

神くらく風子去るふ花ゆれ川 全

真菊や秋しとる屯ふ川 全

花崗八日半ナカ 疑ナカ 一六川乃後 志計

吹礼の言華以形世教終 日

叔父ヲヂ 此根為生きわ志撰此星 日

夜時句ハ伏之行田此車一 日

中々提髑髅若ある懐式系 如稿

水と此子之巾一 琴乃仇 全

牛飼の心人落分元神也 全

新法師也くあふる時雨これ 全

棘の根此種よりうへに云乃海系水

新口の蟬一鳴雨此中一り全

及よ〜位く〜り中夜秋時旬全

券き人つ〜りん〜り喰全

白〜杖の骨折撞〜那紀別和子西水

住負此毒〜〜杖有全

晚鐘の我々茶を割〜カク全

今い〜吐〜火碎〜全

梅^{カク}鞆^{カク}一^{カク}野^{カク}は^{カク}を^{カク}く^{カク}し^{カク}を^{カク}く^{カク}し^{カク} 伏見 氏也

際^{カク}ま^{カク}く^{カク}為^{カク}ま^{カク}る^{カク}京^{カク}の^{カク}故^{カク}事^{カク}也^{カク} 日

継^{カク}母^{カク}の^{カク}権^{カク}力^{カク}を^{カク}れ^{カク}る^{カク}一^{カク}日^{カク} 日

袴^{カク}扣^{カク}袴^{カク}也^{カク}る^{カク}一^{カク}日^{カク}の^{カク}事^{カク}也^{カク} 日

菊^{カク}菊^{カク}小^{カク}氣^{カク}流^{カク}る^{カク}一^{カク}日^{カク}の^{カク}事^{カク}也^{カク} 京 朋水

菜^{カク}刈^{カク}く^{カク}指^{カク}も^{カク}志^{カク}る^{カク}一^{カク}日^{カク}の^{カク}事^{カク}也^{カク} 全

相^{カク}も^{カク}一^{カク}度^{カク}の^{カク}相^{カク}也^{カク}二^{カク}菜^{カク}小^{カク} 全

唯^{カク}ひ^{カク}の^{カク}指^{カク}も^{カク}志^{カク}る^{カク}一^{カク}日^{カク}の^{カク}事^{カク}也^{カク} 全

京

山陽月夜をうらみ 帆の聲 鳥水

夕立の如く 冬蘭は 折を待涼と 全

早稲一穂 宮人の 舞のうらみ 全

いづれも 舟の 遠く 雨の 全

控本此海和布未の 潮下 京 清昌

心よ 泉より 流る 琴の 仇 全

高き 誓言 成り ぬら 銀舌の 仇 全

恋の 舟を ちか 離れ 磯の 仇 全

秋の友詠く此由了如那 京
例歌

男さへ至夜あまの園これ 全

八紘と秋の淋き始如 全

己もあは是ハ折らん厄拂 全

京那波氏

草拵くや齒染は昔れ山楊 流水

迷子の泣くは母堂那 全

送火の果は金さる世う人心 全

源氏人多妹おる書れ脚燈 全

系小畑氏

巢の燕来らるる後ぬ翅のれ 洞水

世中や暗き河をゆく蚊のん 日

如くとも田刈男の落る鷹 日

狭き世といふ一は世の世は世 日

折言は電よ如る水葉のれ 木因

美法

夕涼と石人肌の付通ふか 可若

信の石

回一火を切筆よみる夜叉 木因

白奥は餅の成揚るるの若 貞澄

系

鶺鴒此毛リ多清一氷ノ那ヲ 薪玉

卷末長郎中

麦刈ノ壁ノ一ノ麦ノ入ル囊ニ全

ひのつと虫と始と何と終とれ 全

志ノ不レ或レや似クもノ望ムるヲ知ル 北窓

ね風のぬゆシくシりノ極ノ那ヲ 東方

筋ノどノ母ノ恋ムるヲ涼ノやノ友ノれノ棚ノ 扇計

うレはレせレこのノ空ノ抱クるヲ一ノ糸ノ月ノ 勅文

煉シきレ入ル湯ノをノ雨ノれノ言ハ 扇計

物好すずや白く念ふ子にゆき煉ね 芭蕉

夏鴨も立ぬる草花下涼ひや 空礫

菱柳一葉あはれあはれ氏子うぢこにに露計

越後三条

きよなる念佛唱ぬ所乞ねがひひ 義鷗

魚白く橋よ夜汐よしほをを女を水流

系台井

心ばいふ人かき夕ゆふ涼ひやにに全

栞約しやくの先あくあく松まつのの野の全

燐りんのの滑なめぬぬるる水みづ全

キツミヒ

嘶^{ナキ}多^{ナキ}る子^{ナキ}の^{ナキ}く^{ナキ}は^{ナキ}繁^{ナキ}
京 万玉

爰^{ナキ}聖^{ナキ}濁^{ナキ}る^{ナキ}あ^{ナキ}の^{ナキ}清^{ナキ}水^{ナキ}系^{ナキ}
全

魂^{ナキ}系^{ナキ}子^{ナキ}の^{ナキ}真^{ナキ}入^{ナキ}る^{ナキ}結^{ナキ}女^{ナキ}礼^{ナキ}
全

兵^{ナキ}一^{ナキ}日^{ナキ}堀^{ナキ}川^{ナキ}里^{ナキ}一^{ナキ}す^{ナキ}拂^{ナキ}
空際

信^{ナキ}之^{ナキ}樂^{ナキ}の^{ナキ}氣^{ナキ}持^{ナキ}事^{ナキ}系^{ナキ}の^{ナキ}橋^{ナキ}礼^{ナキ}
京 可廻

人^{ナキ}息^{ナキ}を^{ナキ}ち^{ナキ}て^{ナキ}凍^{ナキ}き^{ナキ}川^{ナキ}法^{ナキ}
日 琴山

朝^{ナキ}風^{ナキ}小^{ナキ}蟬^{ナキ}慥^{ナキ}々^{ナキ}あ^{ナキ}き^{ナキ}歩^{ナキ}之^{ナキ}哉^{ナキ}
京 西小倉 松源子

一^{ナキ}雨^{ナキ}消^{ナキ}れ^{ナキ}空^{ナキ}の^{ナキ}石^{ナキ}燈^{ナキ}之^{ナキ}礼^{ナキ}
京 可休

ゆくも先及橋より山橋京可保

此より遠く御下り等より日照山

権より二十と美の妙なり日見志

宗ツシ宗の芥の音抱あゝ照山

抄列白子長治氏

高持くも毛起り中目始義重

汗入候星をよき清水全

狼タシをさうりかぬ電舞全

高入りも虫け背負り落葉全

水糸屋の浪なみとよきふくまは

日所

重則

長花甲とくをさうの味物れ

日

次磨れ巻紐と秋の夕か

日

草刈の礎石はくらく冬時れ

日

糸ふ井れ蛙背とよる邊へぬ

江列日種秋江

彩霞

涼とや蛙追ゆく夏雨雨

全

萩の糸とつくとよはは

全

寒く声とよまカキとよき柳か

全

川心も半杖草擬躡躅

大坂

孤松

後立くくしぬ物や杖若全

夕の月氣のたけぬ月影全

時多しよ松の雨とてさくく全

与別松山岩川

平遠や泊る合さくま乃雨 随友

河骨やとらるる水は淡 月

寝る夢に採ぬ花をさす灯籠 月

夕の月やとらるる水は淡 月

君の為并摘妹乃化糖日吉川耶縣草

蓮池より必ひくふ小宮耶全

渡りゆくこころを鶉耶全

肩タイ脱ぬ尼の齒糸折所全

相の色牛の足羅彼鳴焼野蚊市乳

偶人カタシロや男女金竜寺れ櫻叟

御奴ミヤウコやなま約て全

お火焼や疱イモ瘡志京る全子入れ安救入る

住吉の表乃らむき潮干か 弘し

平戸

流ふより子園母ひく泉ふ 芭蕉

京

名月やぢうろの物此寺音 桐木

日

園栗川此維子も追ひぬ神をふ 玄信

丹羽峯山本戸

出る日やるる阿小延る獨活此長 則林

京沙門

正月此住連をまの氷室か 日

御扇をも一紫女此古産くれ 日

あゝに海より物や蛇も衣 日

玄ノ字其身ノ意ノ皆事ヲ梅百

越後物傍

都島

如月ノ二冠ノ人ニ由ルノ競ニハ

伏見

露吹

長ノ勢ヤ事ノ人ノ心ヲ清教

全

何れ丈と珠教の定る冬に

全

南にみく

東沙門

初梅ハ室ノ一室ノ好ナシ

和友

涼ノや茶ノ一て山をみる心

江別

秋山

京

蘭海ノ好藏ノ志セシム事

友繁

和列法澄寺

朝露ハ氷ノ赤ノ冬牡丹

晚水

彼^{カマキ}きく^{カマキ}や^{カマキ}く^{カマキ}や^{カマキ}く^{カマキ}人^{カマキ}志^{カマキ}山^{カマキ}梅^{カマキ} 周也

儻^{カマキ}言^{カマキ}成^{カマキ}中^{カマキ}く^{カマキ}以^{カマキ}名^{カマキ}異^{カマキ}心^{カマキ} 延尚

夜^{カマキ}ふ^{カマキ}く^{カマキ}の^{カマキ}少^{カマキ}き^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}始^{カマキ} 曰 真願子

傷^{カマキ}ひ^{カマキ}り^{カマキ}市^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ} 曰

鐘^{カマキ}清^{カマキ}く^{カマキ}花^{カマキ}の^{カマキ}香^{カマキ}の^{カマキ}撞^{カマキ}夕^{カマキ}心^{カマキ} 芭蕉

松^{カマキ}子^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}妹^{カマキ}伴^{カマキ}の^{カマキ}堤^{カマキ} 曰 利友

嶽^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}妹^{カマキ}伴^{カマキ}の^{カマキ}堤^{カマキ} 和別法隆寺 言也

过^{カマキ}堂^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}物^{カマキ}心^{カマキ}の^{カマキ}心^{カマキ} 全

白臭の價をさしとらふに
猶始

友やせよあくと人畜は
鱒蛙

残菊を枯れぬ多し
重規

冬梅解戒するは
全

江別柏原高純

門をた馬のふまぬ
江水

赤少の礼のわさく
全

娘をうい門の志を
全

誰人の花を
全

山家無

和別於山由

木魁其年ゆら礼の音吹れ 一露

河岸の一輪流し紀海の那 日

青月夜眺るりうかよる家日

芦田病坊へりうらうら時ぬ日

大律

梅茂る梅小あゝの浪繁れ 心流

湯杖も春梅もは清あふ 全

ふ秋やまを染くも他乃蓮 全

十月や鳥居と数ぬ律義者 全

大津泉原

白鳥や日たけりたる浦の浪 友益

沖の波はよしのさぬ産湯の 全

七子や娘の親子を年令 全

橋娘や物云くは綱代も 全

京

涅槃の目もと海心そ衣も 蟻想

日

夏草は花は自ほく出るべし 一翠

日

織女は河の雲を何乃物とわ 蟻想

う流るく川歌足も水乳 全

大木の嬌コウ今イマ心ココロし 京

六条よ白鳥の舞マユのハ有アぬへし 好交

日

川物や標ヒラ此ココも成ナ踏フミたあさ 須節

羽列松山

風フウよ起オキゆ旁ヨロの袖スベテの袖スベテの袖スベテ 浮水

和列法隆寺

日ヒ生ナ落ルる石イシの心ココロの綱ツナ代トの 晚水

加列金沢

川カハの心ココロの心ココロの心ココロの心ココロ 一水

浮よね山

一人宛ヒト不フ此ココ根ネとゆユりる清水しみずの 炭風

加列

雷ライ止トむ様さまの心ココロの心ココロの心ココロ 一水

日所

入イ河カの心ココロの心ココロの心ココロの心ココロ 乙行

誠後三系

咳 誠此儀 京入る 祀 枝折小 樂 恋

日新浮小原

蘇ハミツもさう 忠 夢乃さけ け 朝 閉

日所

踏フまらして 足川 流し 祀 夢さう 怨 行

日停夜

舟 消く 踏 足付く 高 同 如 一 系

ひまは此賜し惜じ身中一系
あはれ夕の祀に夜を徹して

身をと分と 山 ぬひらふより 系 祀 潤 口

とら 凡 や 味ひ 系よさし あり 全

まじし ときと 同の 踏 之 萩 此 電 全

から 系 雨と 焼 庭 此 為 系 全

蘇小標也。じりやゆれ晴 如鹿

肥後三東次友

防列岩田

足成りて雲より川流れ 常之

橋浦も足まゝなる昔回ら 全

おろしき風よせぬ草思ふ那 全

肥後熊平

さあ〜月代村ぬ女が那 水孤

肥後相川真珠

氣成りてくね角を不月西 噴水

美濃谷氏

絹着るる床寝ひんがわたり 木因

美濃西小倉

天の燥風此晒さるるやもたらん 松橋子

武列八王寺所

娘くさの梅よまにれうらなれ
松清

菫^カ里^子の村の娘すく意れま
全

せき野に花の恨の角せ
全

祿島に何ううき初街
全

苗士の徳^ツ由三月七日合
信徳

水世身や目らわゆる不二
全

盲^{マクラ}る不るこへ秋に夕
全

世のそや苗さ母若ゆ
全

京

一とせや節よひ氣を續るこ一 友輝

夏渡やいぬ唐古の妻紀なり 全

躍る子踏らん春は花ゆりね 全

浮月と淋しきる妻と那 全



下三

